

外保連手術委員会

山口委員長先生御机下

謹啓。

2004 年度に行った施設基準アンケート結果（施設基準とアウトカムに関する調査）について報告させていただきます。

日本整形外科学会認定研修施設約 2300 施設にアンケートを送付し、ほぼ 50% の 1151 施設より回答を得ました。

施設基準となっている術式のうち、統計的比較が可能と思われる手術件数の術式は治療成績の比較（術後に改善と術後に不変もしくは悪化で比較）、件数の少ない術式は、手術件数のみ（施設基準の手術件数を行っている施設とみたない施設数で記載）を提示しております。

人工関節（膝関節）置換術、膝前十字靭帯断裂形成術、観血的関節受動術は施設基準を満たす施設と満たさない施設で治療成績に統計的有意差はみられませんでした。人工関節（股関節）置換術では、施設基準を満たす施設が  $P < 0.001$  で、有意差をもって治療成績に差がでました。

件数の少ない術式については、年間手術件数が施設基準で定められた件数以上を行っていた施設の比率は 5.0~23.1% でした。（なお、悪性骨腫瘍手術、脊椎骨盤悪性腫瘍については、原発性腫瘍のみではなく、癌の骨転移が含まれている可能性があります）。

以上、報告申し上げます。

どうぞ、宜しく願い申し上げます。

敬具

日本整形外科学会（東邦大学整形外科）

土谷一晃

# 施設基準に関する調査

回答件数=1,151

## 人工関節置換術（膝関節）

実施医療機関数=956

両者間に統計的有意差はなかった

	50件以上		49件以下	
医療機関数	88		868	
手術例数（件）	7,120		12,481	
改善（例／全症例に対する％）	7,038	98.8%	12,321	98.7%
不変・悪化（例／全症例に対する％）	82	1.2%	160	1.3%

## 人工関節置換術（股関節）

実施医療機関数=901

改善の平均値は差はないが、カイ2乗検定で、50例以上の施設が  $p < 0,001$  で有意差をもって改善率がよいという結果であった。

	50件以上		49件以下	
医療機関数	85		816	
手術例数（件）	7,578		9,386	
改善（例／全症例に対する％）	7,558	99.7%	9,227	98.3%
不変・悪化（例／全症例に対する％）	20	0.3%	159	1.7%

## 膝前十字靭帯断裂形成術（鏡視下手術を含む）

実施医療機関数=589

両者間に統計的有意差はなかった

	10件以上		9件以下	
医療機関数	181		408	
手術例数（件）	5,272		1,304	
改善（例／全症例に対する％）	5,172	98.1%	1,289	98.8%
不変・悪化（例／全症例に対する％）	100	1.9%	15	1.2%

## 観血的関節授動術（部位問わずtotalの件数）

実施医療機関数=514

両者間に統計的有意差はなかった

	10件以上		9件以下	
医療機関数	57		457	
手術例数（件）	1,049		1,159	
改善（例／全症例に対する％）	981	93.5%	1,070	92.3%
不変・悪化（例／全症例に対する％）	68	6.5%	89	7.7%

## その他術式の年間手術件数（合計）

回答件数=1,151

内反足手術	指移植術	母指化手術	悪性骨腫瘍手術	脊椎骨盤悪性腫瘍
545	211	92	959	708

その他術式実施状況－施設基準による分類

内反足手術

年間件数545例

実施医療機関数=147

	5例以上		4例以下	
医療機関数／%	34	23.1%	113	76.9%

指移植術

年間件数211例

実施医療機関数=34

	5例以上		4例以下	
医療機関数／%	7	20.6%	27	79.4%

母指化手術

年間件数92例

実施医療機関数=29

	5例以上		4例以下	
医療機関数／%	4	13.8%	25	86.2%

**悪性骨腫瘍手術**

年間件数959例

実施医療機関数=172

	10例以上		9例以下	
医療機関数／%	25	14.5%	147	85.5%

**脊椎骨盤悪性腫瘍**

年間件数708例

実施医療機関数=181

	10例以上		9例以下	
医療機関数／%	9	5.0%	172	95.0%

注：悪性骨腫瘍、脊椎骨盤悪性腫瘍は癌の骨転移が含まれているか否かは調査していません